

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 1 部門第 2 区分
【発行日】 令和 4 年 6 月 28 日(2022.6.28)

【公開番号】 特開 2022-81845(P2022-81845A)
【公開日】 令和 4 年 6 月 1 日(2022.6.1)
【年通号数】 公開公報(特許)2022-097
【出願番号】 特願 2020-193034(P2020-193034)
【国際特許分類】
A 63 F 7/02(2006.01)
【FI】
A 63 F 7/02 314
A 63 F 7/02 312 Z

10

【手続補正書】
【提出日】 令和 4 年 6 月 17 日(2022.6.17)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

20

透光部を有する第 1 の可動体と、
透光部を有し、前記第 1 の可動体よりも前方に設けられた第 2 の可動体と、
前記第 1 の可動体の透光部よりも後方に設けられた第 1 の発光手段と、
を備え、
前記第 1 の可動体及び前記第 2 の可動体は、前記第 1 の可動体を介した前記第 1 の発光
手段からの光により前記第 2 の可動体の透光部が前方から視認可能に発光する第 1 の状態
と、前記第 1 の状態である前記第 2 の可動体を構成する部材が当該第 1 の状態における前
記部材の外形を変化させずに前記第 1 の可動体に対して相対的に動作することにより、前
記第 1 の発光手段からの光により前記第 1 の可動体の透光部が前方から視認可能に発光す
る第 2 の状態と、に動作可能であり、
前記第 2 の可動体は、前記第 2 の可動体を構成する部材の少なくとも一部が、前記第 1
の可動体の前方において前記第 1 の可動体の端部より外方に動作可能であるとともに、後
方に突出する突出部を有し、
前記第 1 の可動体は、前記突出部を案内可能な案内部を有し、
前記第 2 の可動体は、前記突出部が前記案内部に案内されることで前記第 1 の可動体に
対して相対的に動作可能である、
ことを特徴とする遊技機。

30

40

【手続補正 2】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0008
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【0008】

本発明に係る遊技機は、透光部を有する第 1 の可動体と、透光部を有し、前記第 1 の可動
体よりも前方に設けられた第 2 の可動体と、前記第 1 の可動体の透光部よりも後方に設け
られた第 1 の発光手段と、を備え、前記第 1 の可動体及び前記第 2 の可動体は、前記第 1
の可動体を介した前記第 1 の発光手段からの光により前記第 2 の可動体の透光部が前方か

50

ら視認可能に発光する第 1 の状態と、前記第 1 の状態である前記第 2 の可動体を構成する部材が当該第 1 の状態における前記部材の外形を変化させずに前記第 1 の可動体に対して相対的に動作することにより、前記第 1 の発光手段からの光により前記第 1 の可動体の透光部が前方から視認可能に発光する第 2 の状態と、に動作可能であり、前記第 2 の可動体は、前記第 2 の可動体を構成する部材の少なくとも一部が、前記第 1 の可動体の前方において前記第 1 の可動体の端部より外方に動作可能であるとともに、後方に突出する突出部を有し、前記第 1 の可動体は、前記突出部を案内可能な案内部を有し、前記第 2 の可動体は、前記突出部が前記案内部に案内されることで前記第 1 の可動体に対して相対的に動作可能であることを特徴とする。

10

20

30

40

50